

ソ連のポーランド軍事介入を許すな！

民族自立・民主を求めるポーランド人民に連帯しよう！



労働者の勝利を告げるワレサ議長
(8月31日レーニン造船所)

生み出さ
れている。
こうした
賃金の不
平等、生
活苦が、
国民の不
満をいや
が上にも
高めたの
である。
また、

今回のストライキの背景には、経済の混迷、経済的不平等の問題がある。現在西側からの債務は二百一十億ドル（東欧諸国中最高）に達しており、このつげが食肉などの値上げとして国民にまわされ、しかも、一部の自由価格店（実質上一部の高額所得者しか利用できない）以外では、食料品が決定的に不足するという状態が生み出されている。こうした賃金の不平等、生活苦が、国民の不満をいやが上にも高めたのである。また、

(裏面へ続く)

▼ ス ト ラ イ キ の 歴 史 的 背 景 ▲
昨年八月「グダニスクの夏」と呼ばれるレーニン造船所労働者一万七千名の、生命と生活を守り、民主を求める政治ストライキから、グダニスク政労協定―自主管理労組の結成にまで上りつめ、この協定の完全実施を求めて持続されているポーランド国民の闘いは全世界の注目を集めている。だが、昨年の闘いに至るには、一九五六年「ボズナニ暴動」七〇年「グダニスクの反乱」七六年「食肉暴動」に示される幾多の闘いがあった。こうした闘いの歴史の上に昨年来の闘いが準備され、進められてきているのである。

見のがすことができないのは、労働者と知識人・市民との連帯が、このストライキの中で大きな役割を果たしたことである。七六年食肉値上げ反対デモで逮捕された労働者への救援活動から始められた知識人、学生、進歩的市民による労働者擁護委員会(KOR、現在の社会自衛委員会)の活動は、機関紙「ロボトニク」(労働者)の発行(発行部数三万部)など、今回のストライキの大きな原動力となった。

昨夏以来、ポーランドでは、生命と生活を守り、民主を求める闘いが大きく盛り上がり、これに対してソ連の介入の危険が増大している。昨年十一月のカニア統一労働者党第一書記と自主管理労組「連帯」ワレサ委員長との会談で、政労関係正常化という山場を越えたかに見えたポーランド情勢は、一方で、政労協定の完全実施を求める運動が持続的に発展しており、他方で、一月十三日ワルシャワ条約機構統一軍クリコフ総司令官(ソ連元帥)とカニア第一書記、ビンコフスキ首相とのワルシャワ会談などソ連の軍事介入の危険が増大している。

この中でポーランド国民は、ソ連覇権主義に反対し民族の自立を求め、勇敢に力強く、かつ慎重に闘いを押し進めている。そして、この闘いは、国民の大きな支持・団結のもと、労働者が先頭に立っている。またこの闘いは、ソ連の世界的な軍事拡張を押し止め、世界の平和と安全を守る重要な一部をなしていることは言うまでもない。

民族自立の先頭に立つポーランド労働者を支援しよう／ソ連の軍事介入反対／ポーランド国民を支援する国民運動を創出しよう／反覇権平和国民運動を発展させよう！



号 外
1981 1・18

発行 立志社
関西支社

〒604 京都市中京郵便局
私書箱16号

銀行振込口座
第一勧業銀行百万通支店
1147256

毎月1日、15日発行
定期購読を！

24回(1年)〒共3600円
(密封〒共4000円)

81年を反覇権平和擁護国民運動の発展の年へ！

▼民族自立の先頭に立つ労働者▲

四百労組、四十万人を超える労働者のストは市民、農民の広範な支援と団結を最後まで崩さず、ポーランド政府・党の譲歩を引き出し、八月三十一日、工場間ストライキ委員会と政府代表団の間で、①新しい自主労組の結成②スト権の承認③検閲の緩和④政治犯の釈放などを骨子とする二十一項目の合意協定書が正式調印された。この結果、現在、官製の旧労組は全国組織も含め崩壊し、派とんどの労働者は自主管理労組に組織された。九月五日にはギエルク解任、カニア選出が行われた。これらの過程で、当局側も労働者側も、ソ連の動向に神経をとがらせてきた。

ソ連は、九月一日付「ブラウダ」で「反社会分子が政治的経済的困難を深めようと試みており、直接の損害を与えている。」と非難した。これを機にソ連の圧力は強まり、十一月十五日には、ソ連党国際情報部長ザミヤンチンがポーランド政府の対西側借款を批判するとともに、合法的反対派の結成に警告すると、チェコ、東ドイツも、自主管理労組「連帯」に対する非難を強めた。十二月三日には、約四十万のソ連軍が第八警戒態勢（二四時間以内で侵攻可能）に入ったとされる中で、カーター米大統領は対ソ警告。チェコ軍の国境集結が伝えられ、ルーマ

▼ポーランド人民連帯／反覇権平和国民運動の前進を！▲

今回のポーランド人民の闘いは、共にソ連の重圧下であり、ソ連との民族矛盾を持つ東欧諸国へ少なからぬ影響を与えるであろう。これはソ連の東欧支配を揺るがし、ソ連覇権主義に反対する多くの国々・人民と結びつき、世界平和を守る大きな闘いへと発展するに違いない。ポーランド人民の闘いは、ソ連による侵略・拡張・覇権主義の強まりの中で、世界平和を守る運動の重要な一部をなしている。また、この闘いは、労働者が民族・民主主義運動の中で果たす

ニア外相がモスクワに飛ぶなど極度の緊張が続く中、五日緊急にワルシャワ条約機構七カ国首脳会議がモスクワで開催された。そして現在に至るまで軍事侵攻の危機は去っていない。こうした事態の中で、「連帯」は団結の強化を図ると共に、モチャル（七〇年グダニスク暴動を弾圧した元内相）復活による政府の挑発に対する警戒を強めている。過去の闘争の経験を十分に教訓にして闘ってきたポーランド人民は当面ソ連の介入を防ぎ、この間の成果を守るため巧妙な戦術を駆使するだろう。「改革がうまくいくことを可能にするのは、独立労働組合の存在のみだ。我々を信用してほしい。我々は、祖国を救うために独立労働組合を欲しているのだ。我々は国内経済の問題を解決したいのだ。我々は全員がポーランド人なのだ。」（中央ストライキ委員会幹部会員の発言）この発言の中にすべてが語られている。ポーランドは、その歴史の中で度々大國の侵略を受け、それと闘ってきた。ソ連軍を主力とするワルシャワ条約機構軍の侵攻が行われるなら、それは、かつてナチスと勇敢に闘った誇り高いポーランド軍民の抵抗を呼び起こすに違いない。

大きな役割を如実に示している。ポーランド人民に連帯する道とは、物質的・精神的支援は言うまでもないが、それに止まることなく、ソ連覇権主義に反対する全ての国々・人々と手を取り合い、世界平和と民主主義をめざす運動を一層発展させていくことに他ならない。ソ連のポーランド軍事介入反対／ポーランド人民連帯の反覇権平和運動を創出し、発展させよう！！

- ソ連のポーランド軍事介入に反対しよう！
- 民族自立の先頭に立つポーランド労働者に連帯しよう！
- ソ連覇権主義に反対し、世界平和を守ろう！
- 反覇権平和擁護国民運動を一層発展させよう！

反覇権民主連合を

めざす国民政治新聞

新生

を読もう！

毎月一日・一五日発行

二四回（一年）千共三六〇〇円

（密封千共四〇〇〇円）

34・35号の内容

社説 カンボジア救援強化月間の成功と今後の課題
 全国に響くカンボジアに平和を！の声
 各地の集い・コンサートの報告
 写真特集 ・民主カンボジア政府代表団来日
 ・解放区訪問
 金大中氏が危ない 死刑の機ねらう全斗煥
 ポーランド 国境に四十万のソ連軍
 チェコ事件の再来か